

令和元年 5月29日

田辺市議会議長 小川 浩 樹 様

会派名 誠和会
代表者名 中本 賢治

出張（研修参加）報告書

下記のとおり出張（研修参加）いたしましたので、その結果をご報告いたします。

記

参加議員	中本賢治、二葉昌彦
期 間	令和元年 5月9日 ~ 5月10日
実施場所 (研修会場、視察先、 相手方等)	明治大学アカデミーコモン棟（東京都千代田区）
活動の目的・内容 及び結果等	第11回 2019年度 日本自治創造学会 研究大会 「新時代到来！～地方はどう生き残るか～」

報告書は別添のとおり

第11回 日本自治創造学会 研究大会 報告書

誠和会 中本 賢治 二葉 昌彦

1. 研修先 明治大学アカデミーコモン棟 3階アカデミーホール

2. 日時 令和元年5月9日(木)～5月10日(金)

3. 研修事項 新時代到来

4. 研修内容

講演

○ 穂坂 邦夫

自立へのシナリオを語る

○ 片山 善博

真の地方創生と地方自治

事例発表

○ 竹井 智宏、 谷畑 英吾、 斉藤 潤一

講演

○ 斉藤 健、 中井 徳太郎、 村上 由美子、 藤江 陽子

堤 未果

パネルディスカッション

○ 金井 利之

牛山 久仁彦

土居 丈朗

山下 祐介

穂坂 邦夫

2019年5月9日～5月10日、東京都内で開催された第11回日本自治創造学会研究大会に参加いたしました。

少子高齢化、人口減少問題の影響が、私たち身近な所で起こってきている中で、来年のオリンピックが終わればクローズアップされるのが「人口減少と高齢者の問題」であると言われている。

少子高齢化、人口減少が進むと、起こってくる問題として、税収入が少なくなる事や、医療・福祉の増大など重大な諸問題が起こってくる。

その様な中で、「これから地方はどう生き残るのか」をテーマに、穂阪邦夫氏「自立へのシナリオを語る」、片山善博氏「真の地方創生と地方自治」の講演の後、事例発表、講演、パネルディスカッションと2日間にわたる研究大会である。

安倍政権下で掲げられた、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、安全で安心して暮らせる地域が、大前提となるが、地域経済の活性化や、若い世代が、地元で仕事を見つけ家庭を持ち、子育てをし、地域社会を作り、日本全体の活力を上げる事を目的とした「地方創生」である。

具体的にどの様な地方創生事業が実施されたのか、個人消費のテコ入れと地方経済の好循環を図り、経済の好循環を全国津々浦々に拡大していくことができる国の消費対策の一つとして実施されたプレミアム付き商品券事業である。

市町村が、1万2千円分の商品券を住民に1万円と引き換えに交付する仕組みである。

使用期間が限定され、使える地域もその市町村の区域に限られるなどの制約がある。

住民は差額 2 千円分の利得を受けることができ、その 2 千円分は、国が補填してくれる。自治体の懐は痛まないということもあり、人気は高かった。

しかし、プレミアム付き商品券事業は、地域社会にとり、どれだけのメリットがあったのかを考えると、売り上げは、多少伸びたかという商店はあるかもしれないが、

○「地域経済に明るい見通しがついたか」

○「若者が地域に止まってくれたか」

○「困っている地方に取れば良いところもあるが、一極集中している東京都の区役所でも同じ事をやるのはどうか」

等、効果は一時的なものに終わり、バラマキ感のある政策に終わった感があった。

持続可能な地域社会を目指し、「まち ひと しごと と創生」各地方公共団体で、地域の実情に沿った、地域性のある事業が展開されている。

○地方による安定した雇用の創出

○時代に合った地域を作り、地域と地域を連携する

○観光で人を集め産業を興す

○地方と大都市との間の「移住」や「移動」により、生活の可能性を広げる

地域の現状を市民、行政、議会で、何が必要で、大切かを考えて力を入れ、決まったことを市民に報告する前に市民と議論をし、納得する中で、ベストの自治体を作っていく

ことが重要である。

講演内容の中で、自分たちの地域の事は、自分たちで考え、責任を持って決定していく事が大事である。ということであった。

私たち地域社会で生きている「生活の暮らし」の中にあてはめて考えてみると、本来自分たちで解決してきた諸問題が、今の地域社会は、「すべて役所に言えば解決をしてくれる」と、勘違いしている市民の方が多くなってきている。特に若い世代のかたが多くこれは、地域でのつながりが少なくなってきているからである。

地域で生活する中で、年1回の溝掃除すら参加が少ない状態である。

昔は、溝にゴミがたまれば、誰かが溝掃除をしてくれていた、地域には助け合い、コミュニティがあり、「共助」が自然と出来上がっていたのであるが、今は崩れてきている。

地域の良さは、充実したコミュニティである。

このコミュニティの復活こそがこれからの新しい10年、20年先の地域の新時代につながり、地域の良さの再発見につながるように感じた。